

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：25502

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22730120

研究課題名（和文）比較執政制度論における韓国の大統領制

研究課題名（英文）Presidentialism in Korea from Comparative Institutional Analysis

研究代表者

浅羽 祐樹 (ASABA YUKI)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：70403912

研究成果の概要（和文）：

韓国の大統領は「強い」と思われているが、自らの政策課題の立法化に失敗している。なぜなら、議会との関係において憲法上与えられている権限は他国と比べると今なお大きい、政党の関係においてはそれほど大きな権力を行使できないからである。与党が議会で過半数を占めている場合はその与党を大統領は統制しにくい反面、与党を統制しているときは議会で過半数を割ってしまう。大統領選挙と議会選挙は常に非同時選挙だが、大統領ごとに議会選挙の時期が異なるという選挙サイクルが政党政治を規定し、大統領の立法パフォーマンスを左右する。

研究成果の概要（英文）：

Contrary to the general understanding among area specialists and the local people themselves that Korean president is “strong,” s/he often fails in getting her policy agenda realized by the legislature. This seemingly counterintuitive fact is because her partisan power is not as strong as her constitutional power. In the institutional settings after the democratization in the 1980’ s, Korean president is prone to face the dilemma in which either the presidential party’ s majority in the legislature or her control over the party, constitutive of partisan power, is sacrificed due to the non-concurrent, but different electoral cycle between presidential and legislative elections in different presidencies, a unique institutional characteristics to Korea.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：比較執政制度論、大統領制、憲法権限、党派的権力、政策課題

1. 研究開始当初の背景

本研究の理論的起点は、第1に、比較執政制度論の観点からの大統領制研究である。これまで、大統領制の分析は、大統領と議会との憲法権限や政党政治における党派的権力を基準にした大統領の立法上の「強さ」に関する理論的な探究や方法論的操作化を契機に、ラテンアメリカ、東欧・旧ソ連圏、アフリカを対象にした事例研究が蓄積されてきた。しかし、インドネシア・フィリピン・韓国など大統領制や、台湾やスリランカなど半大統領制の事例は多いにもかかわらず、アジアを対象にした研究は皆無であり、国際的な比較研究における空白地帯になっている。

第2に、民主化研究である。体制移行における執政制度の選択は民主化以降の民主主義体制の安定性に差をもたらすとされ、「大統領制の欠陥」は論争を呼んだ。「民主化の第3の波」を経たフィリピン・韓国・台湾はいずれも(半)大統領制を選択したが、韓国と

台湾では民主主義体制が定着したのに対して、フィリピンと議院内閣制のタイでは権威主義体制へ「逆行」する動きも見られる。体制変動という「憲法政治」上のマクロな変化について執政制度だけで説明できるかどうかはともかく、そもそもなぜその執政制度が選択され、その特徴は何なのかという点は、執政長官の「通常政治(政策課題の立法化)」についてミクロな次元から明らかにする上で重要である。

第3に、現代韓国政治研究である。大統領制は現代韓国政治の核心であるにもかかわらず、比較執政制度論の中で適切に位置づけられていないため、概論的水準にとどまっていると言わざるをえない。また、大統領のリーダーシップや政策遂行に関する大統領学も、実証的根拠に乏しく、印象論の域を出ていない。地域研究ではなく現代政治研究の事例として韓国を位置づけなければならない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第1に、韓国の大統領制について、比較執政制度論の研究成果を活用し、多国間比較と時系列比較の中にはじめて位置づけることで、大統領の政策課題の立法化におけるヴァリエーションを解明することである。大統領と議会との憲法権限や政党政治における党派的権力を基準に、大統領の立法上の強さについて類型化し、時期ごとに同定する。例えば、民主化以降の時系列比較において、憲法権限は一定だが、与党の議会支配と大統領の与党統制によって構成される党派的権力は時期ごとに異なるため、大統領の強さにはヴァリエーションが存在する。また、他の大統領制国家との多国間比較においては、党派的権力だけでなく憲法権限も変数になるが、この両者のマトリックスによって大統領の強さが類型化され、それに応じて立法化の程度が異なるはずである。

第2に、先行研究にはなかった制度配置が見られる韓国の事例を用いることで、比較執政制度論の理論的発展に貢献することである。韓国の大統領制には、大統領の当選回数が1期に制限されていて、かつ、大統領選挙と議会選挙の選挙サイクルが周期的に変化するという、先行研究や他のアジアの事例には見られない特徴がある。そのため、韓国の事例を用いることで、同じ大統領制の中で、制度の詳細やその組み合わせの相異によって、どのような政治的帰結の差がもたらされるのかについて明らかにする。

第3に、一般に「強い」と理解されている大統領がむしろ自らの政策課題の立法化においてこそ挫折してきた現代韓国政治の全体像について、理論的に精緻な水準で提示することである。

3. 研究の方法

比較執政制度論の理論的成果に基づいて、韓国の大統領の強さと政策課題の立法化に関する仮説を構築した上で、計量分析と質的な事例分析の両方を用いて検証し、実証の精度を担保する。

大統領の立法上の「強さ」について仮説を構築する上で再検討が必要なのは、憲法の規定上明確な憲法権限ではなく、党派的権力の概念化と方法論的な精緻化である。先行研究において、党派的権力は与党の議会支配(政党システム)と大統領の与党統制(政党規律)によって構成されるものとして概念化されているが、政党規律に関する研究は政党システムと比べて不足しているため、ブレークスルーが必要である。これまで政党規律の程度は議会における投票行動に基づいて算出されるのが一般的だったが、むしろ、執政制度によって政党規律や政党組織が規定されているという新しい見方が提示されている。本研究は政党規律そのものを対象にするものではないが、韓国の大統領の強さを大きく規定しているのは党派的権力であり、党派的権力は政党規律によって左右される以上、大統領制と政党規律の関係について理論的に検討する。

計量分析では、議会に提出された全ての法案の処理状況に関するデータベースと年月ごとの議会の党派構成に関するデータベースを新たに作成し、時期ごとに大統領の党派的権力の相異によって法案の成立状況に有意な差が見られるかどうかについて検証する。

質的な事例分析では、金大中大統領の対北朝鮮政策、盧武鉉大統領の首都移転政策、李明博大統領の大運河政策など、大統領ごとにいくつか象徴的な政策課題を取り上げ、それぞれ立法化の全過程を追跡し、分厚い記

述を可能にする。

4. 研究成果

民主化以後も依然として一般に「強い」と理解されている韓国の大統領は、むしろ自らの政策課題の立法化においてこそ挫折してきた。確かに、憲法権限は多国間比較において今なお大きい、そもそも大統領の強さは党派的権力との関数である。

党派的権力は、一般に、与党の議会支配と大統領の与党統制によって左右される。いずれも執政制度や選挙制度など政治制度によって規定されるが、韓国に特徴的な制度配置は、大統領選挙と議会選挙が非同時選挙であるものの、大統領ごとに在任中議会選挙の時期が異なるということである。議会選挙の時期が遅いと与党の議会支配は困難になるが大統領の与党統制は容易になる反面、早いと逆に与党の議会支配は容易になるが大統領の与党統制は困難になる。つまり、与党の議会支配と大統領の与党統制は二律背反的であり、韓国の大統領はこのジレンマに直面するため、党派的権力は決して大きくはない。

本研究は、韓国の大統領制について比較執政制度論の中に位置づけることで、既存の比較研究における「抜け落ちた輪」を補完すると同時に、韓国事例にのみ観察される制度配置から、比較執政制度論の理論的發展へフィードバックを行った。また、現代韓国政治の根幹である大統領制について時系列比較と多国間比較の中で相対化することで、これまで韓国地域研究において自明視されてきた「強い」大統領像を補正することができた。さらに、大統領制における立法パフォーマンスは、大統領や議会といった選出部門間の憲法権限と党派的権力といった比較執政制度論の視角に、選挙管理委員会や憲法裁判所といった非選出部門の機能を組み込む

ことでより適切に分析できることも明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①浅羽祐樹(2012)「第19代韓国総選挙における『北朝鮮』『東亜』」541, 30-37. 査読無

②斉藤淳・浅羽祐樹(2012)「恩顧主義と貿易自由化：コメ保護農政の日韓比較」『選挙研究』28-1, 114-134. 査読無

③川中豪・浅羽祐樹(2011)「Establishing an Electoral Administration System in New Democracies」『IDE Discussion Paper Series』305, 1-32. 査読無

④浅羽祐樹・大西裕・建林正彦(2010)「Loser's Disconsent in Korean Presidential Primary: Separation of Powers, Electoral Cycles, and Party Organization」『選挙研究』26-1, 53-66. 査読無

⑤浅羽祐樹・大西裕・春木育美(2010)「韓国における選挙サイクル不一致の政党政治への影響」『レヴァイアサン』47, 65-88. 査読無

[学会発表] (計8件)

①浅羽祐樹「市民社会研究とエリート研究の間：韓国という事例」現代韓国朝鮮学会2012年度研究大会，早稲田大学，2012年11月10日

②浅羽祐樹「『自由民主』と韓国憲法裁判所：外交政策の法化と日韓関係の変容」日本国際政治学会2012年度研究大会，名古屋国際会議場，2012年10月19日

③浅羽祐樹「日韓比較の『現住所』：日韓比

較研究の比較事例研究」日本政治学会 2012 年度研究大会, 九州大学, 2012 年 10 月 6 日

④浅羽祐樹「Re-examination of Bicameral Parliamentary System: Lessons from Korea's Failure in 1960-61 for Contemporary Japanese Politics」The 2012 Annual Conference of the Association for Asian Studies, Toronto, Province of Ontario, Canada, 2012年3月17日

⑤浅羽祐樹「現代韓国政治研究の『現住所』: ディシプリンと地域研究の一石二鳥は可能か?」現代韓国朝鮮学会第 12 回大会, 神戸大学, 2011 年 11 月 20 日

⑥浅羽祐樹・斉藤淳「恩顧主義と貿易自由化: コメ保護農政の日韓比較」日本政治学会 2011 年度研究会, 岡山大学, 2011 年 10 月 9 日

⑦浅羽祐樹「Clientelism and Trade Liberalization: Institutional Foundations of Agricultural Protectionism in Japan and Korea」The 2011 Annual Meeting of the American Political Science Association, Seattle, WA, the USA, 2011 年9月4日

⑧浅羽祐樹「両院制議院内閣制の再検討: 韓国における参議院の経験」公共選択学会第 15 回大会, 嘉悦大学, 2011 年 7 月 2 日

〔図書〕(計 8 件)

①Yuko Kasuya ed., *Presidents, Assemblies and Policy-making in Asia*, Palgrave Macmillan, 2013, 40-58.

②浅羽祐樹『したたかな韓国: 朴槿恵時代の戦略を探る』NHK 出版新書, 2013, 208pp.

③大西裕編『選挙管理の政治学: 日本の選挙管理と「韓国モデル」の比較研究』有斐閣, 2013, 59-82.

④大西裕編『選挙管理の政治学: 日本の選挙

管理と「韓国モデル」の比較研究』有斐閣, 2013, 179-201.

⑤浅羽祐樹・木村幹・佐藤大介『徹底検証 韓国論の通説・俗説: 日韓対立の感情 vs. 論理』中公新書ラクレ, 2012, 288pp.

⑥共訳書『民主化以後の韓国民主主義: 起源と危機』岩波書店, 2012, 258pp+22

⑦岩崎正洋編『政党システムの理論と実際』おうふう, 2011, 255-282.

⑧吉川洋子編『民主化過程の選挙: 地域研究からみた政党・候補者・有権者』行路社, 2010, 41-64.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅羽 祐樹 (ASABA YUKI)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号: 70403912

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: